

| | |
|-------------|---|
| 1 審議会名 | 塩田地域協議会 |
| 2 日時 | 平成28年12月15日(木) 午後1時30分から午後3時5分まで |
| 3 会場 | 塩田公民館 大ホール |
| 4 出席者 | 山極会長、山部副会長、阿部委員、伊藤委員、尾崎委員、工藤委員、坂田委員、高野委員、竹内(榮)委員、竹内(弘)委員、竹下委員、龍野委員、西川委員、早坂委員、林委員、本間委員 |
| 5 市側出席者 | 北沢センター長、土屋地域振興政策幹、堀内センター長補佐、佐藤主査 |
| 6 公開・非公開 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 7 傍聴者 | 0人 記者 無 |
| 8 会議概要作成年月日 | 平成28年12月21日 |

協議事項等

1 開会(副会長)

2 あいさつ(会長)

3 協議事項

(1)専門委員会の取組状況について

専門委員会の代表者から取組状況について説明を受け、意見交換を行った。

「地域振興委員会」

(委員会代表者) 別所温泉地区の観光関係者と懇談した際、観光客向けの農産物直売所がないという話を聞いたので、塩田地域での農産物直売所について研究することになり、12月12日に上田市農政課の担当者から農産物直売所の状況について話を聞いた。次回も優良事例となっている農産物直売所の立上げ経過などについて、市の担当者に聞くことになっている。

塩田地域には分散型の直売所がよいのか、丸子地域にある農産物直売所の「あさつゆ」のような集約した大型の直売所がよいのかご意見をいただきたい。

(委員) 農産物直売所は立地条件によって左右されるので、分散型は好ましくない。

(会長) 立地条件やターゲットとなる客層などを検討していく必要がある。

(委員) 農産物が売れるときはよいが、売れなかった場合、農産物の引取はどうするのか。

(委員会委員) 生島足島神社にある東塩田農産物直売所では、棚から下げておくと農家が引き取りに来る。他の直売所では、引取に来ないと違約金を支払う例もある。

(委員会委員) 別所温泉の観光客から近くの道の駅を尋ねられることが多く、松本・諏訪方面に行く方には丸子地域の「あさつゆ」を、東京方面なら東御市の「雷電くるみの里」を紹介し

ている。別所温泉地区にも直売所があるが魅力的ではない。あいそめの湯でも農産物を販売しているが、一般的には入館者しか買うことができないので観光客には勧めることができない。

(委員) 別所温泉の直売所は最盛期には 1,000 万円以上の売上があったが、現在は 1/3 程度に減少している。冬場は営業していない。

(委員) 立地条件のほかにターゲットの絞込みや旅館と連携したり、品揃え、POS システムの導入、従業員の教育などの差別化を図る必要がある。J A や道の駅などとも競合する中、マーケティングが大変重要になる。

「地域福祉・教育委員会」

(委員会代表者) 12 月 13 日に上田市公立大学法人化準備室の担当者から長野大学の現状と市の考え方について聞いた。

長野大学が公立大学になるということで、大手予備校の偏差値が 35 から 45 に 10 ポイント上がったとの報告があり、市が目標とする人材のレベルアップにつながると期待される。

しかし、優秀な学生が卒業後上田市にどの程度定着できるのか疑問に感じている。市役所や市内の企業に受皿が必要ではないかと思う。来年の入学者が卒業する 4 年後にどの程度上田市に定着しているか調査するにはスパンが長いので、来春、公立大学となった長野大学に入学する学生と懇談したいと考えている。

また、公立大学法人化に向けた市の中期目標を受けて、今後大学側では中期目標を達成するための「中期計画」、「年度計画」を策定することになっているので、「中期計画」などが策定された場合は大学側とも懇談を持ちたいと考えている。

なお、委員の親族や知り合いの中に大学進学を目指すお子さんがいれば、上京せず長野大学への入学を検討する考えがあるか伺いたい。そのように考えることで、長野大学に求めるものが出てくるのではないかと思う。

(委員) 前回欠席したので不明な点もあるが、長野大学が公立大学になったとしても、市が学生を優先して採用することはないと思う。学問は自由なのだから市が大学を縛れるものではないと思う。学生にはむしろ世界を目指してほしい。

(委員会委員) 大学には「研究」とともに「教育」という役割もあるので、地域にどのように学生を導くかという要素も必要である。全ての学生が研究するわけではない。卒業して社会で生きていくためには一定の技術を身につけて働かなければならないので、上田市がその働き場所として受皿をつくれるかどうかは重要なことであると思う。何もないと学生は外に出て行ってしまう。

(会長) 長野大学の学生を上田市が受け入れていく必要はあると思う。通常の採用枠に加え、例えば長野大学で上田地域のあるテーマについて研究してきたということの特典とし、優先枠的な採用も検討する必要があると思う。大学や学生にも相乗効果がある。企業側にも言える。

(委員会委員)市は長野大学に対して中期目標を示し、「後は大学で計画をつくって実行してください、チェックはしていきます」ということであるが、市の中期目標は目標値がなく、要望的な内容で、これでは目標を達成できたのか後で評価することができない。市が長野大学を公立大学にするのであれば、その役割も十分考えていく必要がある。また、地域住民としても長野大学に何かできないか考えていく必要がある。

「地域環境保全委員会」

(事務局)説明者が急きょ出席できなくなったため、事務局から報告する。

11月29日に産川竹藪活性化クラブ、長野大学の森本助教及びゼミ生とともに一部の竹藪を伐採し、JAから借りた粉碎機と長野大学森本ゼミ所有の粉碎機でチップ化した。作業そのものは難しくないが、竹チップを肥料として現状では1袋300円で販売しており、労働の対価から見れば割が合わない。

今後も長野大学の森本助教と連携し、次の検討を進めていきたい。

- ・竹チップの肥料としての効果の検証
- ・竹チップのサイレージ(飼料)としての可能性の検討
- ・竹チップのキノコ栽培の菌床としての可能性の検討
- ・タケノコ利用の検討

(質疑・意見なし)

「地域安心・安全委員会」

(委員会代表者)11月18日に上田市危機管理防災課と自主防災組織の活動について懇談した。

自治会での自主防災の活動状況としては、毎年自治会から「自主防災組織編成表」の報告はあるが、複数の防災訓練を実施しているのは3割程度とのことであった。

防災に対する住民への意識向上としては、平成28年の実績で県や市の出前講座を行っている自治会は20自治会、出前講座以外での講義を行っている自治会は6自治会、県の出前講座による災害図上訓練は3自治会ということであった。

定期的に防災訓練を実施している組織としては、中塩田地区自治連、城下地区自治連、南部地区自治連がある。特に、城下地区自治連では市内では初めて「広域避難所運営マニュアル」を作成していることから、塩田地域協議会全体の場で活動内容を聞いてみたいと考えている。

今後は、塩田地域における自主防災活動は何をどのようにすればよいのか、自治会や住民自治組織に情報発信できるよう検討したい。そのためにもまずは現状を知るため、自治会へのアンケート調査を実施したいと考えている。

(委員)中塩田地区では第14分団が中心になって防災訓練を計画し、「自治連」として参加している。塩田中学校の体育館の中でテントの設営を行ったり、災害時に周辺が断水していても水を飲むことができる場となる「安心の蛇口」の組み立て方の訓練などを行っている。毎年役員が交代するので同じことを継続することが必要である。

(委員) 8月に東塩田地区を中心に大雨による災害が発生した。その際に市から「避難準備情報」が発令され、自治会長に連絡が入ったが、その情報を自治会員に伝達することができなかった。今後「避難勧告」などが発令された場合、自治会員に伝達できるか心配である。伝達訓練を行っている自治会があれば情報提供いただきたい。

(委員会委員) 住民への情報伝達はどの自治会でも課題であると考えられるので、アンケート調査をしながら実態を把握し、検討する必要がある。

(委員) 鈴子自治会では有線放送が廃止されたので、市から助成を得て屋外放送設備を導入し、スピーカを自治会内3カ所に設置して災害に限らず様々な情報を自治会員に伝達するようにしている。

(委員会代表者) アンケート調査するに当たり、アンケートに入れてほしい項目があれば事務局に報告していただきたい。

(委員) アンケートには自治会に「災害時に対応できる組織はあるか」、「組織があれば迅速に対応できるか」、「具体的な災害対応マニュアルがあるか」ということを入れてはどうか。そのような自治会があれば参考にさせていただきたい。

(委員) 市のメール配信はどの程度の市民が登録しているのか次回までに報告して欲しい。

(2) その他
なし

4 その他

- ・シンポジウム「塩田平の農業・観光・景観の未来を考える」(主催：長野大学)開催のご案内
1月28日(土)午後1時30分から 塩田公民館
- ・次回日程などの事務連絡
3月の開催は16日(木)から23日(木)に変更

5 閉会(副会長)